

本事業におけるアクセシビリティ向上に対する考え方について

1. 本事業でアクセシビリティ向上を狙う背景

本事業では、観劇という文化的体験の裾野を広げることを目的とし、従前の公演環境の整備の中では(公演形態、作品の提供スタイルなど)作品を届けることができなかつた層の方々に向けたアクセシビリティ向上施策を、公募プログラムにエントリーする皆さんに求めます。

演劇は人々の想像力を刺激し、社会との関わりを深める可能性を持つ表現形式であるが、現状では様々な事情によりその機会が限定されてしまっている現状があります。本事業では、以下に示す複数の観点から観劇機会の拡充を図ることで、包摂的かつ持続可能な文化事業を実現することを目指します。

2. アクセシビリティ向上の具体的施策イメージ

2.1 合理的配慮が必要とされる層に対する施策

- 車椅子利用者へのバリアフリー動線の整備
- 聴覚障害者向けの字幕・手話通訳の導入
- 視覚障害者向けの音声ガイドの提供
- 支援者・介助者の同伴がしやすい座席配置とチケット設計

2.2 子育て中の観客に配慮した観劇機会の提供

- 親子で鑑賞可能なプログラムの編成
- 会場内または近接地への一時保育サービスの提供
- ベビーカー置き場や授乳スペースの設置
- 子連れ観客に配慮したタイムテーブルの設定

2.3 不規則勤務者への考慮

- 平日昼間や深夜帯など、勤務シフトに合わせた多様な上演時間の設定
- 公演のアーカイブ配信やオンデマンド視聴の導入
- 柔軟な予約・キャンセル対応による参加ハードルの低減

2.4 演劇未経験者の観劇への心理的ハードルを下げる施策

- 上演前の解説トークや体験型ワークショップの開催
- 劇場内の案内強化や来場前ナビゲーションの整備(動画・チャットサポート等)
- SNS やウェブサイトでの「初めての方へ」ページの設置
- 入退場が自由な回の設定(フレンドリー・パフォーマンス)

2.5 経済的・社会的に困難を抱える層への観劇機会の提供

- 学生・若年層へのリーチ強化(U25 割引、リピーター特典等)
- 福祉団体・NPO 等との連携による観劇プログラムの実施

2.6 シニア世代やデジタル機器の利用に不安を持つ層への施策

- 電話予約や郵送チラシによるアナログな情報提供の併用
- 劇場スタッフによる来場サポート・事前相談窓口の設置
- 高齢者向けの観劇ガイドツアーなどの設定

(ここに記載している内容はあくまで一例に過ぎません。これら以外にも幅広く多くの方に対しての観劇機会の提供に向けた取組を行っている場合には、具体的な施策についてお教え下さい。)